

幹線運行車デジタルタコグラフデータ解析ソフトの研究開発のお知らせ

運行安全委員会は、幹線運行車の交通安全指導を強化するため、会員企業から大型運行車に設置のデジタルタコグラフ（デジタコ）データの提供を受けて、全流協独自の解析ソフト開発に取り組むことになりました。

デジタコは、本来、車両の発進・停止・右左折などの動きをデータ解析して運転者の技量を点数やグラフ表示する機能を備えています。しかし、同じ点数（数字）が続く場合の指導のしかたや高得点者が事故等を起こした場合の理由が判らないなど、情報量が多すぎて日常的な安全指導につながっていない実情にあります。

また、交通事故惹起者の意識調査では、半数以上が何も出来ずに衝突し、その7割近くは相手が悪いと思っている結果も出ています。

そこで今回、事故を起こす危険に関する視点を、

①運転者の注意力が低下する頻度、

②路上における他車との交差又は進路変更する機会の多さ

の2点に絞り込んでデジタコデータを解析し、その運転行為の多さに着目して数値化することで、交通事故惹起のリスクの高さと体調管理や心のケアに結び付ける日常の運行管理に役立てることにします。

高速道路を利用する幹線運行車の場合は、深夜・早朝に事故が集中していること、直進・等速で重大事故に発展している事故統計に鑑み、漫然運転やブレーキ使用の頻度等の運転行為を数値化して日常の運行管理に役立てる試行を重ねて汎用化するものです。

なお、完成した解析ソフトは、会員以外の物流関係者にも広く開放して、潜在的な危険が見付けにくかった幹線運行車の安全運行管理に役立てる予定です。